

カリキュラム・ポリシー

経営学部経営学科

1. 経営学部経営学科は、建学の精神と教育理念に基づく学部の教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を開設し、体系的な教育課程を編成する。
2. 経営・会計・情報分野を基軸とし、「共通教育科目」（「初期導入教育科目」「リテラシー教育科目」「教養教育科目」）と経営学部及び経営学科に配置の「専門教育科目」（「基礎ゼミナール」「学部共通科目」「学科共通科目」）・「実践教育科目」をバランス良く学修することで、現代社会で通用する専門的な知識を身につけられる教育課程を設定する。
3. 経営に関する体系的な学修を学生が自らの力で設計・履修できるよう、授業の到達目標及びテーマ、準備学修、授業の概要及び受講計画、成績評価法等をシラバスの中に明示する。
4. アクティブラーニングの効果を高めるために、少人数制の授業や演習・ゼミナールを重視する。特にゼミナール（基礎ゼミナール1・2と研究ゼミナール1～6）は、2年生から4年生まで必修とし、担当教員が適切に指導する。
5. 演習担当教員は、クラス担任として学生一人一人と向き合い、学生の学修状況や生活状況、キャリアプラン等を把握して、適切な指導・助言を行い、現代社会の発展に貢献できる能力と信頼される人格を身につけさせる。
6. 教育課程の編成にあたっては、学生一人一人に対して4年間で履修する科目を通して獲得すべき能力をシラバスに具体的に示し、実社会における課題発見や課題解決につながる能力の獲得を保証する。特に地域社会がかかえる問題解決に役立つ実践的な知識や能力の獲得を保証する。
7. 非漢字圏を含めた留学生を積極的に受け入れ、「共通教育科目」経営学部及び経営学科に配置の「専門教育科目」と「実践教育科目」の学修を通して日本語運用能力の向上と、異文化理解が進むよう支援する。また日本人学生が国際的な感覚を養う手助けとして交換留学制度を活用する。
8. 学修を円滑に進めるべく、「カリキュラムツリー」や「カリキュラムマップ」を導入し、学びの可視化を図る。
9. アクティブラーニングを支える諸施設（ラーニングコモンズや図書館、情報センターなど）を有効活用できるように、基礎ゼミナールや各学年で開講される研究ゼミナールにおいてその利用方法についての指導を実施する。

経営学部スポーツマネジメント学科

1. 経営学部スポーツマネジメント学科は、建学の精神と教育理念に基づく学部の教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を開設し、体系的な教育課程を編成する。

2. スポーツを経営面で支える視点を基軸とし、「共通教育科目」（「初期導入教育科目」「リテラシー教育科目」「教養教育科目」）とスポーツマネジメント学科に配置の「専門教育科目」（「基礎ゼミナール」「学部共通科目」「学科共通科目」）・「実践教育科目」をバランス良く学修することで、現代社会で通用する専門的な知識を身につけられる教育課程を設定する。
3. 経営に関する体系的な学修を学生が自らの力で設計・履修できるよう、授業の到達目標及びテーマ、準備学修、授業の概要及び受講計画、成績評価法等をシラバスの中に明示する。
4. アクティブラーニングの効果を高めるために、少人数制の授業や演習・ゼミナールを重視する。特にゼミナール（基礎ゼミナール1・2と研究ゼミナール1～6）は、2年生から4年生まで必修とし、担当教員が適切に指導する。
5. 演習担当教員は、クラス担任として学生一人一人と向き合い、学生の学修状況や生活状況、キャリアプラン等を把握して、適切な指導・助言を行い、現代社会の発展に貢献できる能力と信頼される人格を身につけさせる。
6. 教育課程の編成にあたっては、学生一人一人に対して4年間で履修する科目を通して獲得すべき能力をシラバスに具体的に示し、実社会における課題発見や課題解決につながる能力の獲得を保証する。特に地域社会がかかえる問題解決に役立つ実践的な知識や能力の獲得を保証する。
7. スポーツマネジメントに関する演習を設定して、プロスポーツや地域スポーツや健康増進活動に関する実践的な学修ができるようにする。
8. 学修を円滑に進めるべく、「カリキュラムツリー」や「カリキュラムマップ」を導入し、学びの可視化を図る。
9. アクティブラーニングを支える諸施設（ラーニングコモンズや図書館、情報センターなど）を有効活用できるように、基礎ゼミナールや各学年で開講される研究ゼミナールにおいてその利用方法についての指導を実施する。

人間文化学部（学科共通）

1. 人間文化学部（発達教育学科・心理コミュニケーション学科）は、建学の精神と教育理念に基づく学部の教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を開設し、体系的な教育課程を編成する。
2. 「共通教育科目」（「初期導入教育科目」「リテラシー教育科目」「教養教育科目」）と人間文化学部配置の「専門教育科目」（発達教育学科においては「初等教育専門科目」「特別支援教育専門科目」「中等教育専門科目」、心理コミュニケーション学科においては「心理系専門教育科目」「コミュニケーション系専門教育科目」から。）をバランス良く学修することで、現代社会で通用する専門的な知識を身につけられる教育課程を設定する。

3. 人間と文化に関する体系的な学修を学生が自らの力で設計・履修できるよう、授業の到達目標及びテーマ、準備学習、授業の概要及び授業計画、成績評価方法をシラバスの中に明示する。
4. アクティブラーニングの効果を高めるために、少人数制の授業や演習を重視する。特に演習は、1年生から4年生まで必修とする。4年生の卒論指導演習では、学生が自ら設計して体系的に履修して来た人間文化学部の学修成果を卒業論文という形で発表できるよう、担当教員が適切に指導する。
5. 演習担当教員は、クラス担任として学生一人一人と向き合い、学生の学修状況や生活状況、キャリアプラン等を把握して、適切な指導、助言を行い、現代社会の発展に貢献できる能力と信頼される人格を身につけさせる。
6. 教育課程の編成にあたっては、学生一人一人に対して4年間で履修する科目を通して獲得すべき能力をシラバスに具体的に示し、実社会における課題発見や課題解決につながる能力の獲得を保証する。特に地域社会がかかえる問題解決に役立つ実践的な知識や能力の獲得を保証する。
7. 非漢字圏を含めた地域の留学生を積極的に受け入れ、「共通教育科目」と人間文化学部配置の「専門教育科目」の学修を通して日本語運用能力の向上と、異文化理解が進むよう支援する。また日本人学生が国際的な感覚を養う手助けとして交換留学制度を活用する。
8. 学修を円滑に進めるべく、「カリキュラムツリー」や「カリキュラムマップ」を導入し、学びの可視化を図る。
9. アクティブラーニングを支える諸施設（ラーニングコモンズや図書館、情報センターなど）を有効活用できるように、基礎ゼミナールや各学年で開講される演習科目においてその利用方法についての指導を実施する。

カリキュラム・ポリシー

大学院経営学研究科 博士（前期）課程

作新学院大学大学院経営学研究科 博士(前期)課程では、以下のような理念に基づく教育課程を編成している。

1. 建学の精神と教育理念に基づく研究科の教育上の目的を達成するために、必要な講義及び演習科目を開設し、体系的な教育課程を編成する。
2. 企業や組織が抱える問題の発見と解決に向けた、理論と実践の融合を意図した教育課程を編成する。
3. 必修科目、選択科目等の区別による、専攻分野の体系的な学修・研究機会を提供する。
4. 少人数教育を基本とする学修形態を提供する。
5. 論文指導は指導教授を中心としつつも、関連する専門分野の教員が相互に論文指導をサポートする体制を保証する。

大学院経営学研究科 博士（後期）課程

作新学院大学大学院経営学研究科 博士(後期)課程では、以下のような教育課程を編成している。

1. 建学の精神と教育理念に基づく教育目的を達成するために有効な科目からなるカリキュラムと体系的な教育プロセス
2. 社会や社会を構成する企業をはじめとするあらゆる組織が抱える問題の発見と解決に役立つ、高度で専門的な理論の修得とその実践能力育成に有効な教育課程
3. 必修科目、選択科目等の区別による、専攻分野の体系的な学修と研究機会の提供
4. 少人数教育を基本とする教育体制
5. 指導教授を中心とし、関連する分野を専門とする教員が相互に論文指導をサポートする体制

大学院心理学研究科

作新学院大学大学院心理学研究科では、以下のような理念に基づく教育課程を編成している。

1. 現代社会が抱える問題に対して臨床心理の面からの解決できる専門的な能力獲得の機会を提供する。
2. 必修科目、選択科目等の区別による、専攻分野の体系的な学習・研究機会を提供する。
3. 実習や演習を必修とし、本研究科附属の相談施設及び学外施設での実習機会を保証する。

4. 心理臨床に携わる高度専門職業人の養成に適合した教育を保証する。
5. 少人数教育を基本とする学修体制を保証する。 —